

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【交流】

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 宮城県 <small>ひがしまつしまし</small> 東松島市 |
| 2. 団体名 | 奥松島体験ネットワーク |
| 3. 取組みの名称 | 奥松島体験ランド 海と自然の地域づくり |
| 4. 取組概要等 | |

◇概要

奥松島体験ネットワークは、宮城県奥松島の有する農林漁業や観光資源と、伝統文化を有機的に組み合わせた複合型産業を創設し、都市等との交流人口の増大に努め、地域産業の振興を図ることを目的とし、奥松島宮戸地区の居住者25名で構成されている。

観光構造の変化に伴い、レジャー型から体験型（グリーン・ツーリズムの推進）に向けた動きが加速し、奥松島宮戸地区として、その変化に対応する必要性を認識しながら検討を重ねた結果、これまで個々に対応してきた体験型観光をブルー・ツーリズムとして位置づけながら対応していくためのネットワークの構築が必要だとの認識に立ち、東松島市（当時鳴瀬町）、東松島市観光協会（当時鳴瀬町観光協会）、地域観光業者の3者による体制づくりを行うこととした。

また、（財）都市農山漁村交流活性化機構が行う「グリーン・ツーリズムインストラクター講座」、「農村コミュニティ再生・活性化支援事業」、「観光立村（国際グリーン・ツーリズム）モデル事業」、「みやぎグリーン・ツーリズムアドバイザー派遣事業」等の公的支援を受け、受け入れ体制の整備に力を注いでいる。

年間の主な活動時期は5月～11月までであるが、宿泊客や県外からの修学旅行生を中心に、以下のような体験活動を行う観光客が年々増加している。近年では、北海道、関東圏の小・中学校から教育旅行の目的地としての需要が高まり、取組実績も増加している。

①野外での体験メニュー

操船体験、船釣り体験、磯釣り体験、こだわり船釣り体験、刺網漁体験、かご漁体験、牡蠣作業体験、定置網漁体験、海苔収穫体験、地曳き網体験、潮干狩体験、ウミネコの餌付けと洋上遊覧体験、ロープワーク体験、トレッキング体験、農業体験、マレットゴルフ体験

②屋内での体験メニュー

料理体験、お茶会体験、座禅体験、和太鼓体験、工芸体験

③奥松島縄文村歴史資料館での体験メニュー

貝塚めぐり、火おこし、勾玉作り、アクセサリー作り、土器作り、釣針作り（奥松島縄文村歴史資料館は、国土跡「貝浜貝塚」より出土された縄文土器や骨角器など貴重な出土品を多数展示している）

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
来客数	317	897	990	1,057	1,420
解説	単位：人 東松島体験ネットワークによる各種体験を行った人数				

◇活用している地域資源

- ・日本三景松島

東松島市奥松島地域は日本三景松島の外洋部に位置し、ネットワークが所在する宮戸島は、松島湾内最大の島で現在は陸続きになっている。海上に230余の大小の島々が浮かび、四季それぞれに趣を変え、景勝の地をなす特別名勝松島の一端を形成する風光明媚な景観を持っている。

- ・ 嵯峨溪

島の最南端に突き出た断崖海岸・嵯峨溪は、大分県の邪馬溪、岩手県の狹鼻溪と並ぶ日本三大溪の一つに数えられている。

- ・ 史跡と伝統行事

太古からの歴史的文化に触れることのできる史跡として、縄文時代前期から弥生時代中期にかけての集落跡で日本最大の級の規模である「里浜貝塚」がある。また、宮戸月浜地区で毎年小正月に行われる鳥追行事である、国指定重要無形文化財「えんずのわり」の伝統行事など、古より歴史のある地域である。

- ・ 豊かな観光資源

東北地方でも温暖であることから「東北の伊豆」とも呼ばれ、漁業、観光、農業が盛んで、特に旅館、民宿を中心とした宿泊業と夏を中心に観光客・海水浴客等に対する観光サービス業に力を入れている地域である。

◇地域活性化のポイント

- ・ 奥松島地域の有する自然と宮戸地区の歴史文化、観光資源を最大限に活かしている。地域に根ざした活動を効率的に実施していくことを第一に考え、行政などからの支援は最小限での範囲に留め、自立した立場で活動を行っている。
- ・ 体験メニューは、訪れる旅行者に対して自然の癒しと安らぎを提供するだけでなく、東松島市の魅力をアピールする場となっており、自然豊かな農山漁村の魅力を県内外、都市部に発信している。
- ・ 近年、都市住民の農山漁村への回帰の動きが活発になってきており、今後さらに地方への旅行者が増えていくことが予想される。そこで、宮戸地区においてはネットワークが奥松島地域を発展させていくキーパーソンとして、魅力ある農山漁村づくりを図っていく。

◇事業の今後の展開方向

- ・ 平成20年3月に、宮戸地区において行われた（財）都市農山漁村活性化機構によるグリーン・ツーリズムインストラクター講座の地域開講を経て会員数が増大し、小・中学校からの教育旅行による柔軟な対応が可能になった。現在、日帰り（体験者）や宿泊を伴う旅行者は増加しており、今後さらに旅行者や小・中学生の体験者を増やしていくために、体験メニューの充実化・PR活動を実施していくことが必要と考えている。
- ・ 旅行会社への誘致活動を進め、多くの旅行者の受入れを図っていく。現在継続中の補助事業を有効に活用しながら、備品等の購入やモニターツアーなどの企画を行うことにより、旅行者に満足してもらえるような体制整備を行っていきたい。
- ・ さらに、平成20年度からスタートする、子ども農山漁村交流プロジェクトへの対応として、全国500の受入地域認定を目指しており、今後、受入体制整備を含め積極的に事業に参画していきたいと考えている。

